

2025
夏号
総合版

ふれあいだより

【旬の職員】 支え合い、学び合い、心で見るプロフェッショナル

職場の支えと励ましが原動力に
目指すは信頼されるチーム作り

2021年3月入職

介護医療院ナーシングホームふれあい

准看護師として入職後、法人内奨学金
制度を活用し正看護師を取得がみ ゆうこ
賀美 夕子 さん旬の
職員

仕事と勉強の両立に向けた工夫は？

もともと准看護師として働いており、基本的な知識や技術は持っていました。自分の知識が浅いと感じており、もっと深く学びたいと思っていましたが、日々の業務の忙しさから勉強に踏み切れずにいました。でも、より専門的な知識を深めてご利用者様の役に立ちたい、職員の皆さんときちんと知識を共有したいという強い気持ちや、法人の奨学金制度が後押しとなりました。

正看護師を目指した理由を教えてください

職場の皆さんが、勉強に集中できるように助けてくれました。課題やテストが近くなると、シフトを調整して勉強時間を確保してくれたり、疑問質問に答えてくれたり。「しんどい、辞めたい」と何度も思いましたが、皆さんの「とにかく諦めるな、正看護師になるんよ!」という励ましに支えられて、仕事も勉強も頑張ることができました。職場全体で支えてくれたことに、心から感謝しています。

勉強の気分転換や息抜き・支えになったこと

職場の皆さんとのお飯の約束は、モチベーションのひとつでしたし、何でも相談できる環境があったことは大きな支えでした。また看護学生の期間は、とにかく「できる時間を使う」ことに集中して頑張ってきました。特に子どもたちとの時間は何より大切にしました。公園で子どもと遊びながら、合間にパソコンで課題を作成するなど・・・

現在、上から20歳、18歳、下は小学生の子供がいます。ちょうど長女も看護師を目指して勉強中で、1年間は親子で学生生活が重なり、お互いに刺激し合いながら、毎日を乗り越えてきました。子どもたちが私の頑張る姿を見て理解してくれたことも、大きな力になりました。



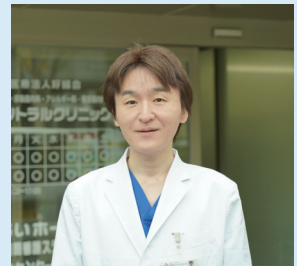
▲ナーシングホームめぐみ那覇の開設に向け、応援スタッフとして沖縄へ。開設後は名前入りのスペシャルケーキを囲み賀美さんへの感謝の気持ちを込め、現地スタッフより送別会が開かれました



皆さま興味深く先生のお話を聞いておられました

6月16日（月）、東原集会所にて「ピロリ菌と胃がんについて」をテーマに、西原セントラルクリニクの院長で、消化器系の専門医でもある久保田先生による講演が行われました。

胃がんは50歳前後から、特に男性で罹患率が高くなるそうですが、早期発見で高い生存率が期待できるため早期の検査と治療の重要性を強調されていました。胃がんの主な原因には生活習慣のほか、ヘリコバクター・ピロリ菌の感染が挙げられ、定



西原セントラルクリニック
院長 久保田 洋平 先生
内科 / 一般内科・消化器内科

広島エリア ぐらしの保健室 開催報告
教えて！ドクター！健康教室



期的な胃カメラ検査とピロリ菌除菌の必要性も紹介されました。講演後の質疑応答では、「経口内視鏡と経鼻内視鏡はどちらがいいの?」「糖尿病と膵臓がんの関連性について教えてほしい」など様々な質問が寄せられ、参加者の高い関心がかがえる盛況な会となりました。



ご相談・お問い合わせ
西原セントラルクリニック
082-871-1177

『オキナワグラフ』に掲載されました

この度、沖縄の歴史あるグラフ誌「オキナワグラフ」2025年5月号に大きく掲載されました。

那覇セントラルクリニック
ナーシングホームめぐみ 4月1日グランドオープン



▶誌面詳細はQRコードよりご覧いただけます。
※オキナワグラフは1958年に創刊。沖縄の「今」を伝える県内随一の写真月刊誌。

今後チャレンジしたいこと

正看護師としては、得られた知識をご利用者のために活かすことです。知識が増えた分、気付けられることが増えるので、少しでも「あれ?」と思うことは医師としっかり連携する、職員同士の情報共有をよりスムーズにするなどで、ご利用者様が少しでも長く、自分らしい生活を続けられるように、チーム一丸となって取り組みたいです。また、個人としては、チームとして皆さんと一緒に、働きやすい職場をつくることです。看護学校では「信頼され、働きやすい職場をつくるにはどうしたらよいか」という視点でのアドバイスもいただきました。指導する立場としての自覚を持ち、積極的に行動し、円滑なコミュニケーションを大切にしていきたいです。